



財団法人 成長科学協会

理事長 鎮目 和夫

当協会内に「心の発達研究委員会」が発足し、早3年が経過としており、公開シンポジウムも今回5回目となりました。昭和52年に成長科学協会設立以来、人の身体の成長に関する研究や研究助成、成長障害者の診断・治療に関する指導、協力等の活動に加え、次代を担う子どもの心の発達の問題について、この様な形で活動を展開してくることが出来ましたのも、皆様の心からの声援に支えられてのことと、深く感謝申し上げます。今回は、日頃私が深く関心を寄せています「しつけ」の問題をとりあげました。「しつけ」とは何なのか、じっくり考えたいと思います。

また今年も、社会的に様々な問題を抱え幕開けいたしました。子どもたちの健康を助け、伸びやかな精神を見守り続けてゆく一年といたしましょう。



心の発達研究委員会

委員長 岡 宏子

豊かといわれる現代社会の中で育つ子どもたち、いや、その中で生活する人たちに、心の発達、人としての心の展開の仕方に問題はないのか？を問うことから活動を始めたのが「心の発達研究委員会」です。これまで3年の間、「父親と子ども」に始まり、「子どもの発達はおかしいのか？」「働く母親と子ども」「これでいいのか食生活」と続いた公開シンポジウムですが、5回目の今回は「しつけ」をめぐる現代的問題に焦点をあてました。異文化間の比較をふまえ、今の日本の親・教師の意識、態度と子どもが示している心の問題をからめて考えてみたいと思います。

「しつけとは何だろう」。現代、子どもの、青年の、また大人も含めて、社会生活の中での「ふるまい」に問題があるとも言われています。日本では、かつて絶対的な価値基準を握っていたと思われる父親が変化し、働く母親が増え、また物質的豊かさが増すにつれ、人々の価値観は多様化してきております。そんな環境のもとで、子どもの中からその能力を大きく開発しながら、「ほしいまま」でない社会に生きる規範を身につけさせていく、おしつけでない「しつけ」があるのでしょうか。

今、学校等子どもの集団で深刻化していると言われる「いじめ」の問題も、ただ子どもと親や教師、学校間の関係の問題とは言えないでしょう。もっと現代社会の子どもの発達をめぐる根本的な問題にも思いを致す必要がありましょう。大人社会にも根深く存在すると思われる同種の問題、マスコミからの影響、子どもたちの心の発達にどういった影響を及ぼすことになっているのか。そして、この様な複雑な問題を一方で抱えながらも、明るく元気な子どもたちがたくさん育っているこの日本の社会や子育てはどう変化してゆくのか。その変化の核の部分で「しつけ」はどうあるべきなのかを考えたい。発達心理学者が研究した日本の子育てとその背景にある文化・社会・思想をふまえた上での「しつけ」について、アルゼンチンから来日した演者が体験した「日本のしつけ」観と自国の子育て、文化人類学的な見地にもとづく「しつけ」論など国際比較を含めた問題提起にひき続き、討論を展開し、子どもたちの中にある大切な可能性を、親が、教師が、我々大人が共にどのように育ててゆけるのか、ご来場の皆様と共に深く考えたいと思います。

心の発達研究委員会

委員長 岡 宏子(大学セミナー・ハウス館長、聖心女子大名誉教授)

委員 東 洋(白百合女子大児童文化学科長、東大名誉教授)

〃 小林 登(国立小児病院長、東大名誉教授)

〃 原ひろ子(お茶の水女子大女性文化研究センター教授)

〃 大野澄子(聖心女子専門学校保育科長、日赤医療センター)

〃 丹羽洋子(育児文化研究所長)

〃 森 玲子(東京都立川高等保育学院)

顧問 鎮目和夫(成長科学協会理事長、東京女子医大名誉教授)

プログラム

テーマ これからの時代に向けてしつけはどうあるべきか：

「しつけとは何だろう」

司会 丹羽 洋子

13:00~14:45	開会 あいさつ	鎮目 和夫
	プレゼンテーション	丹羽 洋子
	演者からの提言	原 ひろ子
		やまだ ようこ
		松下 マルタ
		東 洋

14:45~15:00 休憩

15:00~16:20 ディスカッション
質疑応答

演者紹介

丹羽 洋子(にわ ようこ)〈司会〉

育児文化研究所所長。

出版社を経て、育児文化研究所を設立。育児に関する講演などを通じ、多くの日本の子育ての現場を目のあたりにし、関係者の助言にもあたっている。

原 ひろ子(はら ひろこ)

お茶の水女子大学女性文化研究センター教授。

我が国の女性文化人類学者の草分け的存在。女性問題、子育て論などとの関わりも深く、まさに人類に対する興味と情熱のために多忙な生活を送っている。

山田 洋子(やまだ ようこ)

愛知淑徳大学文学部教授。

主著『ことばの前のことば』(新曜社)、『私をつつむ母なるもの』(有斐閣)等で、発達心理学界の中堅的リーダーとして闊達に活躍中。特に母と子の包み込み関係について、育てられた経験と育てた経験を合わせて考察を進めている。

松下マルタ(まつした まるた)

南山大学外国語学部教授。

アルゼンチンで日本人の夫と結婚、出産後、数年の子育てを経て来日。異文化圏へ飛び込んできた直後の生活から現在まで、日本で何を見て、どう感じたのか。新鮮な意見を語って頂く。

東 洋(あずま ひろし)

白百合女子大学児童文化学科長。日本発達心理学会会長。

昨年、発達の日米比較にもとづく『日本人のしつけと教育』(東京大学出版会)を出版。「心の発達」としつけ、教育との関係について、柔軟で洞察的な考察を試みている。